

九州医師会連合会常任委員・ 九州各県医師会次期日医代議員協議会

常任理事（現副会長） 稲田 隆司



1. 開 会

2. 九州医師会連合会長挨拶

森崎正幸（長崎県医師会長）

昨年 8 月に先生方とお会いし、今日が長崎で行う最後の会合となる。本日は様々な議題があるが、主に日医役員選挙に係る議題となる。また今回の診療報酬改定において日医は懸命に頑張り、何とかプラス改定にまで押し上げた。いざ蓋を開けると風当たりが厳しい。敵は財務省であり、日医ではないことをご理解いただきたい。本日は最後まで宜しくお願いしたい。

3. 座長選出

慣例により九州医師会連合会長の森崎正幸会長が座長に選出され議事に入った。

4. 報 告

1) 九州ブロック日医代議員（含・次期）連絡会議 （令和6年5月25日（土）長崎市）について（長崎）

当協議会終了後に標記連絡会議を開催し、下記の日本医師会委員会報告を予定しているとの説明があった。

日本医師会委員会報告

- 1) 未来医師会ビジョン委員会
玉城 研太郎 委員（沖縄県）
- 2) 救急災害医療対策委員会
田名 毅 委員（沖縄県）
- 3) 医療 IT 委員会
藤井 卓 委員（長崎県）

5. 協 議

1) 九州ブロックから推薦する次期日本医師会役員等の候補者について（長崎）

4 月の常任委員会で次期日医理事（2 名）に

ついては九医連の申し合わせに基づき、熊本県と佐賀県から各 1 名ずつ選出し、裁定委員（1 名）については佐賀県から選出することになっていた。各県から下記のとおり候補者の提案があり、本協議会として推薦を了承した。

(1) 理 事（2 名）

熊本県 福田 稠 先生
佐賀県 志田 正典 先生

(2) 裁定委員（1 名）

佐賀県 松永 啓介 先生

2) 令和 6 年度・7 年度における日本医師会代議員会の諸委員について（長崎）

4 月の常任委員会で議事運営委員については、九医連の申し合わせに基づき、鹿児島県から 1 名選出し、財務委員については、大分県と宮崎県から各 1 名ずつ選出することになっていた。各県から下記のとおり候補者の提案があり、本協議会として推薦を了承した。

(1) 議事運営委員（1 名）

鹿児島県 牧角 寛郎 先生

(2) 財務委員（2 名）

大分県 内田 一郎 先生
宮崎県 小牧 斎 先生

3) 第 156 回日医定例代議員会・第 157 回日医臨時代議員会開催に伴う九州ブロック（次期）日医代議員連絡会議（令和 6 年 6 月 21 日（金）・22 日（土）・23 日（日））の開催について（長崎）

標記連絡会議における日程について了承した。

なお、21 日（金）に関しては、九医連会長からの開会の挨拶、九医連推薦候補者からの挨拶、各種連絡、他ブロックからの挨拶を受け、他のブロックへの挨拶回りを予定している。ま

た挨拶回りについては、常任理事候補の今村先生、濱口先生、理事候補の福田先生、志田先生。付添い役として担当県の森崎会長、事務局が同行する。

翌22日（土）の役員選挙に関しては、慣例により九医連推薦候補者と共に、各ブロック控室での挨拶を予定している。

九州ブロック諸会議日程

- (1) 日時：令和6年6月21日（金）18：00
場所：第一ホテル東京（プリマヴェーラ）
- (2) 日時：令和6年6月22日（土）09：00
場所：日本医師会館（九州ブロック控室）
- (3) 日時：令和6年6月23日（日）09：00
場所：日本医師会館（九州ブロック控室）

4) 第157回日本医師会臨時代議員会（令和6年6月23日（日））における九州ブロック代表質問について（長崎）

先程開催の常任委員・次期会長合同会議において、6月23日（日）開催の標記代議員会におけるブロック代表質問3題を下記のとおり選定し、本協議会として了承した。

九州ブロック代表質問

- ①医師会の組織強化と医業継承問題について
案浦美雪 代議員（福岡）
（要旨）

多くの医師が継承者不足に悩んでいる。福岡市で実施したアンケート調査では、継承者がいない現状が明らかになった。民間業者の介入がトラブルを引き起こし、医師会に加入しない医師が増える課題もある。医業継承問題に対する日本医師会の見解を問いたい。

- ②かかりつけ医機能報告制度について
金丸吉昌 代議員（宮崎）
（要旨）

令和7年度開始の「かかりつけ医機能報告制度」に向けて、今夏に議論が取りまとめられる。現在、政省令の細かな議論が進行中だが、より良い形で決定を願っている。一方、かかりつけ医の役割や基準の明確化などに

ついての意見もあり、日医としての対応方針を伺いたい。また、「地域における面としてのかかりつけ医機能」を発揮していくには、各医療機関や医師会がどう対応すべきか伺いたい。

- ③現職勤務医が日本医師会執行部に参画できる方策の検討 高橋毅 代議員（熊本）
（要旨）

現在の日医執行部は専従勤務のため、公的病院勤務医は参画できない。専任や併任でも執行部に参画できるよう道を開くべきである。一方、厚生労働省では公的病院にも在宅勤務を導入するよう強く指導しており、日医も遠隔勤務を導入し、地方の勤務医や女性医師が執行部に参画できるようにして欲しいが、日医の考えを伺いたい。

5) 日本医師会次期会長候補者の推薦について（長崎）

- 次期会長候補者の推薦については、4月の常任委員会で松本吉郎会長の推薦を決定した。先程開催の常任委員・次期会長合同会議においても、改めて推薦決定を確認し、九州医師会連合会として一枚岩で支援することを了承した。
- 次期副会長候補の推薦については、他ブロック所属の候補者であるため、これまでの例に倣い、九医連としては関与しないことを確認し、これを了承した。
- 常任理事候補の推薦については、前回九医連の推薦を受けて立候補された鹿児島県の今村英仁先生と福岡県の濱口欣也先生が引き続き立候補予定となっていることから、これを了承した。
- 議長、副議長候補者については、他ブロック所属の候補者であるため、これまでの例に倣い、九医連としては関与しないことを確認し、これを了承した。また、会長選挙との絡みで推薦等の対応が必要になった場合には常任委員会に一任することを了承した。

6) 日本医師会次期役員等候補者の推薦届出と都道府県医師会選出日医代議員への文書による協力依頼等について（長崎）

九医連推薦候補者については、慣例により担当県で書類作成等を行い、締切日の6月1日（土）午後5時迄に届け出を行う。

また、理事・裁定委員の推薦については、九州各県の現・次期会長を推薦人として届け出を行う。従前、選出県の次期副会長を推薦者に加えていたが、立候補届出規定の変更に伴い、推薦人数が10名以上15名以内と改められた。そのため、今回は現会長・次期会長を推薦人として届け出を行う。同じく、常任理事候補の推薦届出についても、現会長・次期会長を推薦人として届け出る。

以上を踏まえ、担当県にて当該手続きを進めることを了承した。

また、九医連推薦の日本医師会役員候補者の推薦文案について協議し、これを了承した。送付先は都道府県医師会長、日本医師会代議員、日本医師会予備代議員、十四大都市医師会長宛てとすることを確認した。

日本医師会役員候補者

- ・ 日本医師会会長候補者
松本 吉郎（現日本医師会長）
- ・ 日本医師会常任理事候補者
今村 英仁（現日本医師会常任理事）
濱口 欣也（現日本医師会常任理事）
- ・ 日本医師会理事候補者
福田 稠（現熊本県医師会長）
志田 正典（次期佐賀県医師会長）
- ・ 日本医師会裁定委員候補者
松永 啓介（現佐賀県医師会長）

6. その他

1) 決意表明

今村英仁 九州医師会連合会推薦 日本医師会常任理事候補者

1期2年間で九州医師会連合会の先生方のご支援ご指導のお陰で、しっかりと仕事することが出来た。この実績をもとに、次の2年間で本番だと考えている。他ブロックの先生方か

らは九医連の纏まりを羨ましく言われる。今後は、日本の医療政策に関わる仕事も増えてくるため、引き続き、先生方のご支援とご指導をお願いしたい。

濱口欣也 九州医師会連合会推薦 日本医師会常任理事候補者

九医連の推薦を受け、再び日医常任理事に立候補する。昨年、4名の常任理事の増員に伴い選任され、組織強化を担当した。九州8県と四国4県を担当し、40年ぶりに日医会員が2,000名以上増えた。これは先生方のご支援の賜物であり感謝申し上げる。今後は、さらに重要な仕事を担うと考えているので、引き続き、ご支援をお願いしたい。

2) 退任挨拶

鹿児島県医師会会長 池田琢哉

鹿児島県医師会会長を14年間務めた。この間、九州全体が一枚岩となり、多くの協力を頂きながら素晴らしい成果を上げることが出来た。私は常々、医師の使命は国民の健康と命を守ることだと考えている。鹿児島県医師会では、社会的貢献、会員の自己実現、医師会の進化の三本柱を掲げて取り組んできた。県民の命と健康を守ることを最優先にし、先達の思いを後輩に伝えることにも努めてきた。今後は皆様にも、この理念を心に留め、役割を果たしていただければと思う。14年間の協力に心から感謝申し上げます。

沖縄県医師会会長 安里哲好

県医師会役員に参画して23年、医師会長として4期8年務めた。その間、諸先生方の指導に感謝申し上げます。沖縄県医師会では、「県民と共に歩む医師会」、「地域医療の更なる充実」、「魅力ある医師会づくり」の三本柱を掲げて活動してきた。特に県民の健康作りに注力し、長寿県だった沖縄の平均寿命低下に対処するため、働き盛り世代の健康対策、高血圧性関連疾患の予防に力を入れてきた。地域や職場での血圧管理を推進し、健康な社会作りを進めてきた。

今後は新会長にバトンタッチし、九州全体が一枚岩となり、地域住民のために協力していくことを願っている。

佐賀県医師会会長 松永啓介

平成10年に佐賀県医師会の執行部に入り、会長職は2期4年務めた。就任時にコロナが始まり、退任時にようやく落ち着きを見せたものの、最近また増加している。この2期4年間は

コロナに振り回された期間であった。今後は新しい会長と執行部が発足する。新執行部への温かい支援をお願いしたい。九州医師会連合会は一枚岩であり、日医にも意見を述べる強さがある。この姿勢を引き続き維持し、健康で頑張っていただけをお願いしている。

7. 閉 会

印象記

常任理事(現副会長) 稲田 隆司

この所稀に見る代表質問が採択された。熊本県選出の高橋毅代議員からの質問である。

議席番号	氏 名	都道府県
143	高 橋 毅	熊本県
題 名 現職勤務医が日本医師会執行部に参画できる方策の検討		
背 景 日本医師会入会案内にはこのように謳ってあります。 「日本医師会は、医師たる者はすべて医師会に入会してほしいと考えています。 国民の医療を守り、医師がその職責を存分に全うできる環境を実現していくためにも、医師会員の一人となり、ともに日本の医療を支えていきませんか。」とあります。 日医の全会員に対する勤務医会員の比率は、令和2年に初めて過半数に達し、現在は53.2%に増加しています。また都道府県医師会においては、勤務医の比率が6割を超える道県は12を数えます。そして松本会長の進める組織強化策により勤務医の割合はさらに増え続ける見込みであります。 都道府県医師会の執行部では、すでに勤務医が多く参画しており、地域の状況が的確に反映されています。では日本医師会執行部はどうでしょうか。入会案内にもありますが「より良い医療環境を実現していくためには、医療現場の声を医療制度の決定プロセスに反映させていくことが必要です。」とあります。そのためにも、常任理事・理事に、第一線で活躍している勤務医を参画させて、医療現場の生の声を医療制度の決定プロセスに反映させなければなりません。 政府は、女性活躍・男女共同参画の重点方針として「2030年に30%」を目標に掲げました。日本医師会執行部も2030年には女性医師30%、勤務医30%を目標に掲げてはいかでしょうか。そのためにも、次のような提案をさせていただきたいと思います。		
質問事項 1) 現在の日医執行部の勤務形態は専従であり、公的病院等の現職勤務医は参画することができません。専任あるいは併任人事でも執行部に参画できる道筋を切り開いてもらいたい、いかがでしょうか。 2) 厚生労働省は施策として、公的病院にも在宅勤務を導入するように強く指導してきています。日医も率先して遠隔勤務を導入し、東京から離れた地域の勤務医でも、あるいは主婦である女性医師でも執行部に参画できる道筋を切り開いてもらいたい、いかがでしょうか。		

これまでの日医の弱点を指摘し、それ故に今後の日医の発展に大きな示唆を与える内容である。沖縄県医師会としても勤務医の先生方の貴重な経験を反映させるべく取り組んでいかねばならないと強く考えさせられた。